



1 開会のことば

中村百合子:私、立教大学の中村と申します。本日は皆様、お集まりくださりまして、ありがとうございます。司会を務めさせていただきます。

本日のシンポジウムのタイトルは「日本の学校図書館専門職員はどうあるべきか」ということで、こちらのカラーのもの（シンポジウムチラシ）に書いてありますが、「論点整理と展望」でございます。このテーマに合わせて、大阪教育大学名誉教授の塩見昇先生、それから東京大学の根本彰先生にご登壇いただきます。

講師の先生方のプロフィールは、こちらのカラーの紙の裏側に書いてございます。塩見昇先生も根本先生も、ご存じでない方はいらっしゃると思いますが、簡単にご紹介いたします。

塩見昇先生は、京都大学教育学部をご卒業で、大阪市立図書館勤務、それから大阪教育大学の教授、また附属図書館長等を歴任されました。現在は日本図書館協会の理事長でい

らっしゃいます。『日本学校図書館史』は、皆様ご存じの名著であります。明治期から占領終了後の学校図書館法が成立するまでを描いた、本当に1冊しかないという、学校図書館史を大きく描かれた大著であります。戦前と戦後における学校図書館運動の連続性をこのご著書の中でご指摘になっておられます。この本に学ばれた方はここにも多いかというふうに存じますが、その後も数多くの著作を発表しておられまして、近年では『学校図書館職員論』、また『教育を変える学校図書館』などを出版しておられます。

根本彰先生は、東京大学大学院教育学研究科を修了され、図書館情報学助教授を経て、現在、東京大学大学院の教育学研究科の教授でいらっしゃいます。日本図書館情報学会の会長もお務めで、また、今日のシンポジウム自体がLIPER3という、表側の一番下に書いてあるんですが、科学研究費を受けてのプロジェクト、「図書館情報学教育を高度化するための研究基盤形成」というような、これがLIPER3の本名というか、なのですけども、こちらの研究代表者でいらっしゃいます。今年、『探究学習と図書館』という学校図書館

に関する非常に実証性にあふれるご著書を発表されまして、皆さん、学校図書館についても根本先生が一家言をお持ちだということを知るに至ったのではないかと考えております。

講師の先生方のご紹介は、簡単でございますが、以上にさせていただきまして、本日のシンポジウムの趣旨を確認させていただきたいと思っております。

学校司書の法制化が話題になっております。また、来年には学校図書館法の成立から60年を迎えます。ここで、日本の学校図書館界の歴史の全体像を確認した上で、未来に向けて可能な限りよりよい専門職像を広く共有したいというのが、今日の趣旨でございます。

塩見先生のお話を1時間ぐらいおうかがいしたいと思っております。その後、ちょっとお部屋がかなりきゅうきゅうになっていることもありますので、1時間の後5分ほど、予定しておりませんでした。休憩を挟むことにしたいと思います。その後もう一度、根本先生のお話は30分と短いのですが、そのお話の後に15分ほど休憩をとります。その間に、先ほど確認させていただきました、この質問用紙のほうにご質問がおありの方、また討議したいテーマ等がおありの方がおられましたら、ご記入いただきまして、お休み時間の間に回収をこちらでさせていただきますので、ご提出ください。

後半にはお二人の先生方に並んでご登壇いただきまして、集まりましたご質問から幾つかに回答していただこうと考えております。そのやりとりの中で、フロアからもさらなるご質問やご発言をいただければと存じます。

これから申し上げることは私個人の思いなのですがけれども、この職員問題というのは——問題というふうに言ってしまうといいのかというのがまずあると思っておりますが、学校図書館が課題解決学習の場であるとか、また学校図

書館専門職はその課題解決学習を教えるのだとかいったような言説があるわけなのですがけれども、それについて、実際にそんなことが可能な私たちであるのかということが問われる、私個人は、この学校図書館の職員の話題というのはそういう問題、課題であるというふうに捉えております。つまり、私たちがいかに意見を交わして理解を深め、またいかにこの職員問題に取り組んで解決するかということ、私たちの専門性の試金石だろうというのが私の考えであります。充実した対話の集会となりますように、本日おいでいただきました皆様には一人一人ご協力をいただきたくお願い申し上げます。

本日は、速記の方と、それから事務のお仕事をしてくださいました今井さんがカメラを持っていろいろ、皆さんの顔は写さないということでしたけれども、記録をとっております。記録を最終的にまとめまして公開いたしますので、ご理解いただければと思います。

では、まずは塩見昇先生のほうから、「日本の学校図書館職員史と今後への展望」についてお話をお願いいたします。どうぞよろしくをお願いいたします。

